

ふかめる

地球ひろば

ともにつくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

ガーナ①

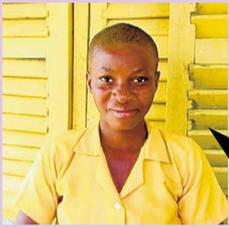


今週のリポーター

◆工藤慎吾さん 東京都豊島区立要小学校の先生。JICAの青年海外協力隊として、2016年7月から18年3月までガーナに派遣されています。ガーナ北東部のアッパーイースト州ナブロンゴにある市教育事務所のスタッフとして、約50の小学校をバイクで巡回しながら、現地で簡単に手に入る材料を使った算数の教材や理科の実験、子どもたち主体の授業の仕方などを、現地の小学校の先生に紹介しています。



絵カードで、かけ算の意味を教えています



deborahさん(14歳)

カセム語 Don waaro おはよう

家族

父と母、20歳の兄、18歳の姉、10歳の弟、私の6人家族です。父の仕事は農業でお米、ナス、ペペ(ガーナの唐辛子)を育てています。母は、マーケットで飲み物を売っています。

飼っている動物

豚7匹と犬11匹を飼っています。両方とも大きくなったら食べますが、おいしいです。

食べ物

好きな食べ物はティゼットとオクロ(オクラ)スープです。ティゼットは、ミレット(雑穀)とトウモロコシの粉などで作る、ガーナ北部の料理です。オクロスープやピーンリーフという豆の葉っぱのスープと一緒に食べます。



左がティゼット

夢

将来は科学者になって、天気の研究をしたいです。

好きなこと

「アンペ」という遊びが好きです。1対1で手拍子に合わせて足を出して勝負するゲームです。相手と同じ足を出すか違う足を出すかで勝ち負けが決まります。子どもの遊びなので、中学校では禁止されているのが残念です。



「アンペ」という遊び

放課後

放課後は市場に行って、ソボロという水に砂糖やショウガの汁を混ぜた飲み物を売ります。1本1セディ50ペセワ(約40円)で売っています。

教科

好きな教科は理科です。将来なりたい仕事に役立つからです。嫌いな教科は現地語(カセム語)です。話すのは得意だけど、書いたり読んだりするのが難しいからです。

日本のこと

日本人はやさしくていい人というイメージです。空手のイメージが強いです。

休日

土曜日は、家族のために洗濯や掃除をしたり、市場に行ってソボロを売ったりします。日曜日は、洗濯や料理をするほかに、教会に行って神様にお祈りをしたりします。

現地語 70種類以上も



ガーナの公用語は英語ですが、日常生活はその土地の民族の言葉(現地語)が使われており、70種類以上あると言われています。そのため、ガーナの学校では、日本の「国語」にあたる教科は「現地語(ナブロンゴではカセム語)」と「英語」の授業があります。

親切で働き者の子どもたち



工藤さん

ボロ(鎌)を上手に使いこなし草を刈る小学生



日曜日の夕方、近くの商店に買い物に行った帰り道、中学生くらいの男子3人組が「手伝いましようか」と声をかけてくれました。彼らは、私が買った15キロもする飲み水の入った袋を交代で、私の家まで運んでくれました。ガーナの子どもたちは親切で、本当に働き者です。私の近所の小学校の登校時刻は午前7時半です。子どもたちは登校すると、まず、近くの井戸まで水をくみにい



水をくみにいく途中の子どもたち

ったり、細い枝を束ねて作ったほうきを使って学校の敷地の掃除をしたりします。学校には、1時間目の授業の代わりに全員で草刈りもします。使い方を間違えれば危険な鎌(現地の言葉で「ボロ」といいます)も慣れた手つきで使いこなす姿に驚きました。きっと自分の家でも普段からやっているのでしょう。家でも子どもたちはよく働きます。水道が通っていない家庭では、水くみは子どもたちの仕事。水の入った重いバケツを頭に載せて、家から井戸まで何度も往復します。多くの家庭では、洗濯は休日子どもたちがやるようです。小学校高学年や中学生になると、料理の支度やヤギや牛などの家畜の世話を任されることもあります。ガーナの子どもたちは、大変な仕事でも文句ひとつ言わず、自分たちがやるのが当たり前のようにやるところが素晴らしいです。でも、家で勉強をする時間があるんだらうかと、ちょっぴり心配になりますね。